

第12回 登別市中小企業地域経済振興協議会 議事録

平成26年11月29日(土) 14時30分～

登別市民会館2階 小会議室

- ◆出席委員：松山 哲男 会長
齋藤 正史 副会長
川田 弘教 委員
鈴木 高士 委員
守屋 聡 委員
藤田 康 委員
沼田 一夫 委員
二瓶 秀幸 委員
井上 昭人 委員
計 9名

- ◆事務局：商工労政グループ 伊東商工労政・新エネルギー主幹
奥田主査

- ◆議題：【市内各産業分野の問題・課題の整理とその原因の分析】

- ◆ファシリテーター：(株)アムリプラザ

代表取締役 岡山 洋一 氏

企画プランナー 丸山 宏昌 氏

会長：今日は、これまで協議してきた各産業分野における問題・課題を、本日お越しの岡山先生、丸山先生からのアドバイスをいただきながらまとめていく。そして、まとめたものを年内に中間報告という形で市長へ提出したいと考えている。

講師

講師：本日はよろしくお願ひします。今日の私たちの役割は、みなさんが思う存分話し合えるよう進行役に徹することと考えている。気づいたことやこうして欲しいということがあれば気軽に申し付けていただければ対応する。

これまで8回ほどにわたって各分野の課題・問題点について話し合われてきたと聞いているが、今日は各分野に共通する課題・問題とその関係性を見ていこうと思っている。

最終的には、全員でアウトプットして、色々な原因の関係性やつながりを見ながらまとめていきたい。

講師： 本日は、これまでみなさんが協議会を通じて考えられた問題・課題を基にして進めていきたい。

進めるにあたり、今日の研修会の目的は問題・課題を整理して関係性を探っていくこととなっている。つまり、みなさんがこれから話をしていく中で、問題・課題に対する色々な解決策やアイデアが出てくると思うが、今日は解決策やアイデアを出すのではなく問題・課題を整理して関係性をみつけ、その原因を探ることに重点をおきたいと考えている。

それでは、みなさんが考えられた問題・課題について再度振り返り、感じたこと思ったことをグループに分かれて話し合ってもらいたい。

《グループ討議》

C： 登別市は観光が基幹産業であるとの認識は共通している。1次産業（農業・漁業）に関しては、現状だけで終結させており、新しく何かを始めることは難しい状況にあるので、その人たちをどう変えていくかが課題である。また、高齢化による後継者不足もある。

講師： 新しいことをやるというのはなかなか難しく、今あるものの中で何かできることはないかを探すというのも大事かもしれない。

B： 関係性でみると外貨稼ぎが大事な課題ではないか。また、市が行う事務事業が、みなさんで考えた問題・課題に沿ったものになっていたかということのを改めて考えさせられた。

講師： この協議会では、今後の登別市の構想を策定していると思うが、その中で施策を考えていくときに、原因が明確になっていないとその施策も生きてこない。従って、この時点で課題やその原因というものを明確にしていくというのはとても大切なことである。

B： 登別市は4地区に分かれていて、それぞれの地区における現状の細かい把握がこれまであまりなされてこなかったということも課題の一つではないか。また、各産業の問題・課題を出してきたが、地区性にに基づいた問題提起や課題整理がされていない。

講師： 今は産業単位で整理されているので、分けられると見えてこないものがあるかもしれない。

A： 行政の方針になってくると思うが、そこをきちんと決めないと、個々で場当たりの対応して、解決策を探ろうとしてもダメではないか。

講師： おっしゃる通りである。わたしたちは札幌市で商店街の活性化事業を行っており、やり方として何通りかのアプローチがある。自分がやりたいことや、やれることからスタートするやり方もある。しかし、

それだと実は課題解決にならないことがある。やはり、何のためにやるのかということが出てくる。

今は課題に焦点をあてて話をさせていただく。まちの中には課題があれば魅力や資源もある。それをどのように活用してこのまちを活性化させていくかという施策を考えていくが、魅力とか資源については後の話で、課題をある程度特定して、その課題を解決していくために魅力を高めていき資源を活用した施策を考えるという流れになる。

従って、最初のこの段階では、どの課題に焦点をあてるのか、どのテーマでみなさんが取り組んでいかなければならないのかということに焦点を絞っていくことが大切である。

今は、産業ごとをテーマに取り組んでいる。それで分けると課題が見えづらいが、実はつながりというのがすごくあると思う。

これから課題となる共通項を見つけ、新しいカテゴリー分けをしていきたい。各自、これまでの議論の中で出された、共通する言葉やよく出てくるキーワードを探り、抽出していただきたい。

《グループ討議》

講師： このあと、問題についてもっと広げ、深く掘り下げていかなければならないが、一旦、グループで出たものを発表いただき、それについてみなさんで考えてみる。

C： ・外国人観光客に対する全市的なホスピタリティが不足している

- ・地元製品の知名度が低い
- ・人材育成が不足している
- ・PRが不足している
- ・人口が減少している
- ・後継者が不足している
- ・生産年齢人口が減少している
- ・産業間の連携が不足している
- ・大型店が進出してきている

A： ・域内循環が不足している

- ・各種データの収集と分析が不十分である
- ・連携する上での話し合う場がない
- ・外貨獲得が不十分である
- ・1次製品の付加価値化が不足している
- ・地場産品を売る場がない
- ・人材の育成がなされていない
- ・後継者が不足している
- ・観光産業と他業者との連携が弱い

- ・連携と協働の取組が弱い
- ・現場の問題・課題の把握が不十分である
- ・地場製品のPRが不足している
- ・町の方向性（柱）が見えない

- B :
- ・人口減少が進んでいる
 - ・少子高齢化が進んでいる
 - ・雇用の場がない
 - ・地域が4地区に分かれている
 - ・大型小売店が強いため地元の商店との格差がありすぎる
 - ・観光業から各地区・他産業への波及効果がない
 - ・観光客の滞在時間が短い
 - ・事業者の意識が低い

講師： 今、共通事項として出していた中で、同じものやつながっているものがある。たとえば、PRが不足しているというのは結構出てきた。PRが不足しているというのは問題だが、これまでもPRを高めていくための施策は行っているだろう。それが、どうしてうまくいかないのか、そこからもっと問題が出てくるかもしれない。そのため、もっと色々な問題を考え、深堀していきたい。

《グループ討議》

- B : ・人口減少の問題から雇用の場がないことへつながっている
- C :
- ・進学等により市外へ出て行った若者が戻ってこない
 - ・まちに魅力がない
 - ・市内に勤めたいと思う企業がない
 - ・既存の市内企業が新しい事業に取り組むことが難しい
 - ・企業誘致で登別市に足りない産業を呼び込むことが不十分
 - ・外向け（観光客等）に対する魅力発信は行おうが、地元に対しての発信が薄い
 - ・内向け（市民）の情報発信はしているが、外に対しての発信が薄い
- A :
- ・人間関係が希薄になっている
 - ⇒絆のあり方を考えていかなければならない
 - ・「つながり」や「協力」の必要性の明確化がなされていない
 - ・「つながり」や「協力」の必要性を話し合う場がない
 - ・「つながり」や「協力」を明確化するためのリーダーや場所が必要

講師： 連携が必要と言われるが「なぜつながることが必要なのか」を考え、その価値観が共有されていないと、つながりを持つ意味が薄くなり、形だけのつながりになる。

次は、今まで出てきた問題の原因探っていくが、まずは問題のカテゴリー分けを行う。

【カテゴリー分けを行って】

副会長： このカテゴリー（別紙）を対等に扱うのだろうか。このうちの「方向性が不明確」というカテゴリーは非常に大切だと思う。方向性を明確にすることで、ツリーのように他のカテゴリーが下りてきて、それぞれの問題・課題の解決への道筋になるのではないだろうか。

一例として、以前、協議会の中で「ロハス（健康と環境、持続可能な社会生活を心がける生活スタイル）」について発言したことがある。

「ロハス」のような明確な理念を、まちづくりの将来に向けて掲げるということが方向性なのではないかと思う。

その方向性を誰がどのように決めるのかということが大事になってくる。「方向性」「ビジョン」「価値観」「理念」などを複合したものがないと、たとえば「連携不足」とあるが、連携しようにもそれぞれの組織や団体、個々の事業に何か共通したものがなければできないので、やはり方向性が明確ではないというところにつながってくると思う。そのため、個々のカテゴリーを解決しようと思っても難しいのではないかと考えている。

会長： 副会長が話したことは理解できるし、そうすべきであると思う。登別市における「太い柱」を何にするのかを明確にし、それがツリーの最上部にあたる理念的なものであり、柱を支えるのが個々のカテゴリーではないだろうか。

やはり、柱がないと、連携、雇用、人材育成等についても力の入れどころが違って来るし、誰がどこに関わりを持っていくのかも見えてこない。それを見出していくことが大事であると思う。

講師： わたしたちも行政の総合計画などを作ることがある。その中にはビジョンがあって施策があって目標があってという形で進めていくが、さまざまな人たちが集まってさまざまな意見や考えがある中においては、最初からビジョンを見つけていくという作業は難しい。ビジョンを作る事だけを先にやることで、言葉遊びになってしまうこともある。

それよりは、みなさんで共通項を見つけ出しながら方向性を探っていくという方法がよいのかもしれない。

副会長： 「ビジョン」という言葉でまとめようとした場合、イメージの言葉となりがちであり、他の市町村においても似たような言葉が並んでいるが、それはわたしたちにとって必要ない。「ビジョン」と言

ってももっと違う意味合いで、もっと根深いものにしないとイケないと考えている。今分けたカテゴリーを一つずつ叩いていけば、きちんと浮かび上がってくるのかという懸念もある。

講師： いきなり最上段から話をするのではなく、みなさんで低いところから話をしていきながら、自分たちが大事にしていくことは何か、こういう方向で行かないとイケないなど、キーワードを探し出し、そこからビジョンを考えていくという方法もある。

講師： 今回作られるビジョンにも当然言葉が出てくるが、そこに違和感を覚えるのは、その言葉が自分にとって主体的になっていないからではないか。そのため、このようにいろいろな話をしたうえで浮かび上がってくるものであれば、その言葉は自分にとって落とし込まれていて、主体的なものなのかもしれない。そうであれば納得できるのではないか。

委員： ここまでまとめたとは言え、まだ微妙にニュアンスの違うものも含まれているように感じるので、もう少し精査してもよいのではないか。

副会長： 私もそう思う。分けてはいるものの、実際、このカテゴリーに入っているのかなというのもあるので、この場である程度整理した方がよいと考える。そして、根本的に大事なツリーの形が必要だという意識をみなさんが持っていれば、この先、納得できるものが出てくる可能性は十分あると思う。

講師： それでは、もう少し整理してみる。

【整理後「PR不足」「人材の問題」「連携」でグループを再編成し討議】

講師： 「PRが足りない」「外貨獲得が不十分」などの問題があるが、それらに対する取組がなぜ上手くいかないのか、なぜ行われてこなかったのかというところで深掘りし、それを原因として挙げていただきたい。

※「方向性が不明確」については、全てのカテゴリーに繋がる問題と捉え、別途協議することとした。

※「雇用の場がない」については、他のカテゴリーを深掘りしていくことにより生じる二次的な要素という捉え方をし、個別に協議は行っていない。

【市内各産業分野に共通する問題・課題とその原因】

(別紙)

PR不足

●問題・課題

- ・外貨獲得が十分ではない
- ・観光のPR不足している
- ・体験型のPR不足している
- ・観光客がまちに流れる仕組が不足している
- ・スポーツ施設が不足している
- ・グルメのPRが不足している
- ・地元産品の知名度が低い
- ・地元産品のPRが不足している
- ・一次産品の付加価値が不足している

●原因

- ・PRそのもののやり方がわからない
- ・地場産品を売る場が無い(スーパー、道の駅等)
- ・市民が登別の魅力(一次産品等)を知らない、食べていない
- ・PRに経費がかかる
- ・内向けではなく外向けの情報発信が十分ではない(HP、広報以外でも)
- ・地元の魅力等の内向けへのPRが不足している

人材の問題

●問題・課題

- ・後継者が不足している
- ・人材育成策が不足している
- ・事業者の意識が低い
- ・ホスピタリティが不足している

●原因

- ・関連業界の先行きが不安である(跡を継がせられない)
- ・教育にコスト(金と時間)をかけられる余裕が無い
- ・コストに値する人材がいない(従業員の高齢化)
- ・現状に満足し、安住している
- ・利己的になりがちであり、地域や市民のことを考えていない
- ・語学を習得する教育機関が無い

連携

●問題・課題

- ・観光業が他産業に波及していない
- ・観光客の滞留策が無い
- ・大型店と地元企業の連携が不足している
- ・地域が分断し地域住民の連帯性が薄い
- ・域内循環が十分ではない
- ・連携する上で話合いの場が無い
- ・産業間の連携が不足している
- ・リーダーがいない

●原因

- ・大手の方が安く、好条件である
- ・観光業は支払いサイトが長い
- ・魚介類の安定供給ができない
- ・加工の対応ができない
- ・販路開拓の意欲が無い
- ・利己的になっている
- ・大型店と地元企業の相互理解の場が無い
- ・連携アドバイザーが不足している

方向性が不明確

●問題・課題

- ・現場の問題・課題の把握が十分ではない
- ・目標が不明確である
- ・各種データの収集と分析が十分ではない
- ・まちの方向性(柱)が見えない

※PR不足、人材の問題、連携のカテゴリーについてさらに掘り下げた協議を行うことにより、登別市が進むべき「方向性(柱)」が見えてくると思われることから本項目については別途協議する。

雇用の場がない

●問題・課題

- ・人口減少により雇用機会が減少している
- ・少子高齢化により経済が縮小している
- ・生産年齢人口の減少により経済が縮小している
- ・雇用の場がない
- ・人口流出により経済が縮小している
- ・外へ出た若者が戻ってこない
- ・魅力ある企業がない

※PR不足、人材の問題、連携のカテゴリーにおける問題・課題の原因分析を行い、その解決に向けた具体策を検討する中において、「雇用」の問題は、各カテゴリーに共通して生じる二次的な要素と捉え、別途協議する。

講師： 本日は、登別市における各産業に共通した問題・課題を整理し、そこからさらに整理した共通項のカテゴリー分けを行った。そして最後にカテゴリー単位の問題・課題を深掘りし、原因の洗い出しまで行うことができた。

次の段階としては、この原因への対応策を考えていくとともに、登別市にある資源の活用方法を考え、登別市における中小企業振興の方向性を見つけていくことになると思う。

最後に、みなさんから一言ずつ本日の研修会終えての感想をお聞きしたい。

委員： これまで行ってきた協議会はテーブルディスカッション形式であったが、作業が伴う本日の研修会の手法は非常に有意義だった。

各産業における問題・課題は、実際にカテゴリー分けをしてみると「人材の問題」や「事業者の意識の問題」など、個々で見るとばらばらではあるものも、どこかでつながっていることを実感した。

副会長： 本日の研修会を終えて、この先どうなるものかと思っていたところから、少し道筋が見えてきた。まだ時間はかかると思うが、地道に取り組んでいきたい。

委員： 本日の作業を、みなさんで意見を交わしながら行ったことにより共通の意識を持つことが出来たのではないかと思う。

委員： グループ討議を行った内容をさらに深掘りした意見交換を行い、一定の整理ができたことは今後につながる成果だと思う。

委員： 個々の問題・課題を追及していくといろいろなところにつながりがあることを改めて実感した。また、それをみなさんで共有することの大事さを感じた。

会長： 本日の研修会はとても有意義で、研修の手法についても勉強になった。

各産業の問題・課題の整理ができ、その原因についても一定程度の整理ができたことは成果と考えている。今後は原因についてももう少し掘り下げて検討する必要があると考えている。

委員： 協議会の行っていることが意味のあるものだと改めて感じた。本日の研修会である程度の道筋が見えたので、今後作成されるビジョンが市民にも理解されれば、登別市の経済振興の道が開けるのではないかと感じた。

委員： 今後の人口減少や高齢化を見据えた中で、登別市は登別温泉というネームバリューに頼り切っているところがあるため、これからは市内全域で連携し、外貨獲得に向けた取組を行い、市内経済を支えるとともに、福祉分野などへの還元策も考えていかなければならないと感じた。